

仙台市の葬儀社などが東日本大震災の葬送支援を振り返るフォーラムが17日、青葉区のTKPガーデンシティ仙台勾当台であつた。

国連防災世界会議の一般公開事業で、仙台地域葬儀会館連絡協議会が主催。約160人が参加し、遺体安置所へのひつぎの供給や犠牲者の仮埋葬の体験談に耳を傾けた。

連絡協の菅原裕典会長が葬儀社の使命をテーマに講演した。仮埋葬後に遺体を

埋葬支援を振り返る

仙台 葬儀社など講演

掘り起こして火葬した作業を説明し「遺族の方々が故



震災時の葬送支援について意見を交わしたパネル討論

人をしつかり送りたくてもできない環境だつた。ご遺体の尊厳を大切に活動した」と語つた。

被災当時の仙台、石巻両市の担当課長らを変えたパネル討論があつた。「仮埋葬は遺族や業者、自治体の負担が大きく、今後の災害ではできるだけ避けた方がいい」「火葬場の耐久性に不安があり、止まることを恐れた。壊れたときのバツクアップを考えることが必要だ」といった意見が出た。